

核兵器廃絶をめざす 富山医師・医学者の会 会報

2003. 3. 15
核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会
富山市桜橋通り6-13
電話 076-442-8000

イラク攻撃にNO! ～ 私の思い

日本は米国の属国ではない

世話人代表 片山 喬



医薬品の安定供給を阻む経済制裁（写真：豊田直巳）

報道によると、日本政府は安保理の決議があるうがなかりうが、戦争をおこすという米国側のやり方を支持せざるを得ない。これは、日米同盟の関係からだという。

しかし、同盟関係にあるからといって、日本は米国のやること全てに同調する必要はないはずだ。日本は特に戦争をしないことを国是としているのであるから、以前からはっきりと、米国を説得すべきであった。

政府は北朝鮮の問題もあって今更日米関係を断ち切ることは出来ないというが、国際協調を第一と言うならば、米国のみに従うべきではないと考える。世界の多くの国が米国を支持していないのだ。

日本は米国の属国ではない。かつて日米安保条約締結反対に盛り上がった時代が想起され、あの軍事同盟によりわが国

イラクの問題は地球全体に繋がる

世話人副代表 高野 昇治

イラクは核を持っているのか？其の他の大量殺戮兵器を持っているのか？

イラクは全面的に疑惑を自分から解明すべきである。其の為にも査察はイラクの誠意ある協力、諸情報開陳のもと、継続すべきである。安易に、最後の武力行使に対し突き進むべきでない。

もし国連の決議のないまま、戦闘に突き進むような事があれば、ゆゆしき問題である。アメリカは国際社会で孤立し、国連の機能、権威は失墜する。もしそうなれば、北朝鮮の核廃棄を求める行動も、其の力と頼む国際社会のバックを弱める事にならないか？北に対するには、わが国・アメリカ・韓国は勿論、其の他の国々の緊密な連携なくしては果たせないが、アメリカの態度が我が国の将来を左右す

る大きな問題に繋がるのにである。

それらの問題は、明らかに、戦争によって解決できるものではない。戦争は、果てしない報復の連鎖を生み、地球を鬼界と化さるであろう。

即ち、それらの解決には、国連中心が基本であり、国連は慎重な上にも慎重に協議を重ね、武力介入を避けるべきである。最後の最後まで努力を尽くすべきである。

戦争はなんとしても避けるべきである。又核を含む大量破壊兵器の拡散は絶対に防ぐべきである。

イラク並びに北朝鮮の問題は、我々の命に繋がっている。否、地球の命にも繋がっているのである。

世界で起こった1千万人のデモ

世話人副代表 黒部 信也



白血病を発症して二ヶ月のムスタファ君（写真：豊田直巳）

2月11日の午後、無党派の市民団体「平和をつくる富山県連絡会」の呼びかけで、富山駅前の広場で平和を守る集会が行なわれた。5人の人から今平和を守るための行動をする必要性について語られた後、「NO. WAR!」と書かれたプラカードを手に、駅の周辺を20分ほど歩いた。

あいにく小雨の降る日だったし、さほど参加者が多くなかった事もあり、あまり市民の関心を引かずに終わったようだ。

しかし今や世界中では、イラクに対する武力攻撃に反対するデモは、1千万人規模で行なわれるようになり、それがアメリカやイギリスの手足を縛る役割を果たすまでになった。

それに関連して特に私に感銘深く思われたのは、アメリカにいるオノ・ヨーコ氏が、新聞全面の意見広告にのせた、

「戦争は終わりだ、もしあなたが望むなら」という叫びだった。そしてそれに呼応するかのような、さまざまな国からイラクへ乗り込んだ「人間の楯」の人々だった。

私達日本人はアメリカ軍による空襲で、富山をはじめ広島、長崎や日本中の都市で、多数の非戦闘員の命を奪われるという辛い体験をした。それと同じ悲劇が今イラクの人々に押しつけられようとしていることに対して、「絶対やめて欲しい」と、日本中でいろいろな運動が起きるこ

バレンタインデーの夜

世話人 小熊 清史

バレンタインデーの夜、なにげなくテレビをつけたら、国連安保理の中継場面だった。国会中継なんかよりよほど面白くて、3時過ぎまで見入っていた。

フランスの外相が、自国は長い歴史の中で多くの戦乱を経験し、なによりも平和が大切であることを知っているのだ、と語った。アメリカが仏独に浴びせた「古いヨーロッパ」という悪口を皮肉ったものだ。中国の外相もまた、自国の長い歴史を誇る言葉を枕に置いて演説した。イギリスの外相は、自分も古い国からやってきた、わが国はフランスによって建国された、とジョークを飛ばす。アメリカの国務長官は、わが国は新しい国ではあるが…といいわけがまししく口を開く。

このやりとりは翌日以降の新聞やテレビでも報じられた。が、報じられなかつ

た発言のなかに大切なものがある。

ひとつはフランス外相の発言。

査察は遅々として進まない、いつまで待てというのだ、とアメリカは非難する。戦争は、もしかしたら短期間で終わるかもしれない。しかし、戦争で破壊された国土を復興するには途方もない時間がかかるのだ。時間がかかることで査察の継続を批判するのは当たらない。

もうひとつはシリア外相の発言。

イスラエルは150余の国連決議と31件の国連安保理決議を無視し、検査を拒否している。それでもお咎めなし。決議を受け入れ、査察を受け入れているイラクを「不十分」だとして責めるのはダブルスタンダードだ。

もっとも、アメリカの国益に沿うものが正義だと考えれば、シングルスタンダー

ドなのかもしれない。

それにしても、これらの発言がまったく報じられないのは不思議…いや、不思議

おかしいことはおかしい、と言いたい

世話人 太田 真治

今の世の中、おかしいことだらけ。で、いいのかな？子供の頃の素直な気持ちで、おかしいことをおかしいと言わないといけないんじゃないかな。

混乱に混乱を極めて選出されたアメリカ大統領がおかしい。彼が大統領になってからというもの、CO₂排出規制を取り決めた京都議定書を反故にし、さらにはロシアとの間の戦略核兵器削減条約をも破棄し、もうやりたい放題。自らの行動がテロの誘発になっているのが解からないのかね。

兵器産業を後ろ盾にして当選した大統領だからして当然かもしれないが、テロとの戦争を全面に打ち立てている。

そんな先制攻撃を正当化するアメリカを許していいんだろうか。

アメリカはいろいろと理由付けしているが、結局は自分の言う通りに世界を動かしたいだけ。テロに積極的に反対しないヤツは敵だときた。テロには反対だがアメリカの横暴にも反対だという態度ではアメリカの敵になってしまう。凄い論理！ロンリ、ロンリー、独り善がり。

僕はフセインを弁護する気はさらさらないが、積極的にイラクを非難しないとブッシュ大統領には敵に写るらしい。



パスラ市郊外にある村の学校の黒板（写真：豊田直巳）

相手を非難するには、まずもって自らの襟を正すべきじゃないだろうか。

それをせずに、戦争という名の人殺しを実行すれば、世の中は暗黒の奈落の底へと落ちて行く。

今問われているのは、命を大切にする側に立つか、人殺しの側に立つか、だ。そして、間違っただ行動をしようしている

戦争で苦しむ子どもを見たくない

世話人 与島 明美



将来の夢を聞くと「お医者さん」「学校の先生」（写真：豊田直巳）

どのような問題解決のためにも、戦争という手段を用いることは絶対に反対です。

戦争のために傷を負った人たちの治療をすることは、とても悲しいことです。

戦争のために苦しんでいる子供やお母さんの瞳を見るのは、とても辛いです。

今、世界中で、No War! の声が上がっています。その人たちと心をひとつにして、日本から、富山からも No War! の声を大きく上げていきましょう。

核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会が、 アメリカ・日本・イラクに要請

3月7日の国連安保理で、ブックス委員長の査察追加報告が「あと数ヶ月の査察が必要」としたにもかかわらず、米英は17日を査察の期限とする、事実上戦争を可能とする修正案を提出しました。ブッシュ大統領は、これが採択されるか否かにかかわらず、イラクへの攻撃を開始することを表明しています。

これに先立つ2月25日、核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会は、世界で大きく盛り上がった反戦の世論に呼応し、ブッシュ・米大統領とフセイン・イラク大統領、そして小泉首相あてに、国連を通じた平和的手段による問題解決を追求することを求める要請書を送りました。

武力攻撃は憎しみの連鎖を拡げるだけ

ブッシュ大統領宛の内容では、アメリカの国連決議違反を問題にする際の二重基準は、世界の支持を得られないことを

指摘しています。同じ中東にはイラクよりも数多く国連決議を違反し、核武装させている国家が存在し、アメリカがその国を擁護する一方でイラクを先制攻撃するという理屈は通りません。

武力行使によって起こるアメリカの世界からの孤立化は避けるべきであり、この戦争は世界中でテロと戦争の連鎖を拡げるだけであることを危惧しています。

結果の明らかな抗戦は 自国民の命を奪うもの

一方フセイン大統領宛の内容は、新決議案が採択されたらイラクにとって最悪の事態になること、世界中の反戦デモは査察への非協力を免罪するものではないこと、結果の明らかな抗戦はイラク国民の命を奪うことであり、大統領でさえそんな権限は与えられていないことを訴え

内閣総理大臣 小泉 純一郎 殿

日本国憲法とイラク攻撃反対の世界世論にこたえ 勇気をもって米政府に戦争回避の説得を

日本政府は、先の国連安保理公開討論でイラクに対する査察を打ち切り、武力行使を前提とした新たな決議の採択を主張した。圧倒的多数の国々が査察継続支持を表明するなか、明確な根拠も示さずブッシュ政権を擁護する姿は、はたして日本外交の独自理念を世界に示したと言えるであろうか。

政府は北朝鮮の脅威を想定してイラク攻撃を正当化しているようであるが、それは米国の陥った泥沼に日本をのめり込ませるだけである。武力による国際紛争の解決を放棄した日本国憲法よりも日米安保を優先するような現在の姿は、「国益」を叫んで戦争に突き進んでいった暗黒の時代を想起させられるものである。

世界で嵐のように渦巻いている戦争反対の意思表示は史上最大と言われる。その多くはソ連崩壊後のアメリカの一国主義に対する警鐘である。このままでは、ブッシュ政権は世界から孤立し、国連による解決という人類の築き上げた平和への叡智を粉々にしてしまうであろう。日本は、アメリカの友好国として、勇気をもってアメリカのとるべき道を諭し、国連の合意に基づく解決をめざすことこそ平和国家日本としての役割である。

人間の命と健康を守ることを使命とするわれわれは、日本政府にたいしその役割を果たすよう要請するものである。

2003年2月25日

核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会世話人会
世話人代表 片山 喬

ブッシュ・アメリカ合衆国大統領 殿

世論は戦争でなく、国連による解決を望んでいる 貴国にとって真の国益は国際的信頼をかちとること

2月15日に世界を駆けめぐったイラク戦争反対のデモは、1,000万人という史上最大の規模となった。とりわけロンドン、マドリード、バルセロナ、ローマなど貴国の武力行使支持を表明している国において際だっている。また貴国内においても国連安保理決議なしの先制攻撃に対して懸念する声が日増しに大きくなっている。

湾岸戦争以後、イラクは他国を侵略していない。テロ組織やアルカイダとの関係を示す確たる証拠も出ていない。大量破壊兵器も確かな証拠はない。徐々にではあるが査察への協力姿勢を示している。いっぽうで、イラクより国連決議違反が多く、すでに大量破壊兵器である核を持ち、査察にも応じていない国が存在している。このダブルスタンダードを放置したままのイラク攻撃は、将来にわたっても世界の支持は得られないであろう。

もし国連憲章に反する先制攻撃を行なうならば、さらには戦術核兵器を使用するならば貴国は世界から孤立し、国家間の紛争は国連という舞台で解決するという人類の築き上げた平和への叡智を粉々にしてしまうことになる。すでに威嚇はイラクにたいし十分に効果を発揮した。薬は効きすぎると毒であり、攻撃すれば必ず反撃される。もっとも恐れるべきは、戦争とテロの限りなき連鎖が貴国内のみでなく地球のあらゆるところで始まることである。

人間の命と健康を守ることを使命とするわれわれは、貴国にたいし戦争によらない解決を、勇気をもって選択するよう要請するものである。

フセイン・イラク大統領 殿

イラク国民の命を奪う権利は誰にも与えられていない ただちに国連査察への全面協力を

今、貴国の大量破壊兵器の廃棄をめぐって世界が揺れている。アメリカ、イギリス、スペインは24日、貴国に対する武力行使容認の新決議案を安保理に提出した。3月7日のブリクス国連監視検証査察委員長の査察結果報告で、よほどの内容が示されない限り最悪の事態が必至であることを、貴国は認識しなければならない。

いっぽうで世界を駆けめぐった戦争反対のデモは、1,000万人という史上最大の規模となった。その多くはアメリカ、イギリスによる国連安保理決議なしの先制攻撃に対する反対の意思表示であって、貴国の査察非協力を免罪するものではない。もし先制攻撃や核兵器が使用されるならば、「国家間の紛争は国連という舞台で解決する」という、人類の築き上げた平和への叡智を粉々にしてしまうことを最も危惧しているのである。

今、残されたわずかな時間の中で、進行中の査察に全面的に協力することが戦争を防止する最も有効な手段である。たしかに貴国以外に国連決議違反を犯し、すでに大量破壊兵器を保持し、査察にも応じていない国が存在している。貴国の決断が好戦的な国々にたいして国連の権威を高めることになり、このダブルスタンダードをなくしていくことになる。

結果の明らかな抗戦は無意味である。何の罪もない国民の夢と希望と命さえも奪う権利は、たとえ大統領にも与えられていない。

人間の命と健康を守ることを使命とするわれわれは、貴国にたいし国連査察への全面協力をただちに行なうことを要請するものである。

世界を読み解く

最近の 新聞報道から

—イラク攻撃に対する英世論の反発が強い。
「攻撃は国際法的には問題ない。(イラクに無条件の武装解除を求めた)決議一四四一は、イラクが順守しないと重大な結末を招く」と明記している。とはいえ、(武力行使を正当化する)新決議案を提出し安保理で賛同を得ないと、(ブレア英政権は)政治的には難しい状況になるだろう」

「世論には戦争そのものに対する誤解がある。イラク攻撃は、米軍の装備や予想される戦術を考えると、現代の戦争としては(犠牲者の数などが)最悪の部類には入らない。むしろ戦争後の地域情勢の流動化や

(国際テロ組織の)アルカイダへの支持(の高まり)など、戦争がもたらす副作用の方が問題だ」

—ブレア首相はイラクの政権転覆を口指すことは道徳的な理由があると主張する。「正義の戦争」は存在するのだから。

「例えば第二次大戦で連合国が日独の市民にもたらした惨劇はひどいものだったが、戦争の目的を考えれば、全体としては不正義な戦争ではなかった。フセイン政権打倒はイラク国内で歓迎されるはずだ。手法も妥当なもので、正義のため

ローレンス・フリードマン氏

—ロンドン大キングス・カレッジ公共政策学校学長



▶1948年生まれ。オックスフォード大など研究を。国際戦略問題研究所(IISS)などキングス大学カレッジ戦争学部教授を務める。

3.7日経

ごう慢な米国 次の危機誘発

の戦争と呼べると思つ」排除することに関する国際「戦争に反対する道徳的に認知されたドクトリンな理由は常にある。しかし(教義)がないことだ」

今回は、戦争もやむをえないとする道徳的な理由が「先制攻撃」の概念を主張れと同じぐらいの説得力を「先制攻撃」の概念を主張している。

「議論のすり替えだ。先制攻撃(pre-emptive)に限定せず独裁政権を武力で制攻撃」

「これは、自己防衛の権利を認め、自分なれば本当に殴られる」が殴られるとわかったか」と証明する努力を米国が怠ら、その直前に相手を先に殴ること、一種の自衛権と戦機運の背景にある」

「封じ込め政策でフセイン政権を抑えようという戦略は九〇年代の終わりから崩壊し始めた。そのため米国内の一部には、常にイラクを攻撃すべきだとの議論が根強く残っていた。そのまじったから次も成功する」という「ごう慢な考え」に陥る危険性がある。次に同様の状況が生じても、反戦機運は今回ほど強まらないはずだ。しかし例えば北朝鮮情勢はそう簡単ではない。もし米英がイラク攻撃に勝利したら、その直後に北東アジアの緊張は一気に高まるだろう。北朝鮮は「次は自分だ」と確信する。これがイラク攻撃の最も危険な結果の一つだ」

「先制攻撃ではなく実態は予防的攻撃」

うだけでは(フセイン)政権打倒の理由にならない。米国が主張する同政権はアルカイダとの関係も根拠が弱い。将来殴られる可能性が半分くらいあるから今のうちにくたく、というだけでは「予防的攻撃」(preventive strike)と呼ぶしかなく、新国連決議が必要だ。『ここで手を出さなければ、外からの圧力で米国を動かすことは不可能だ。結果として、例えば英国のブレア首相など同盟関係にある指導者を窮地に陥れている」

「今回のイラク攻撃は前例になるのか。戦争になれば、短期間で成功裏に終わると思う。そうすると、米国が今回うまくいったから次も成功する」という「ごう慢な考え」に陥る危険性がある。次に同様の状況が生じても、反戦機運は今回ほど強まらないはずだ。しかし例えば北朝鮮情勢はそう簡単ではない。もし米英がイラク攻撃に勝利したら、その直後に北東アジアの緊張は一気に高まるだろう。北朝鮮は「次は自分だ」と確信する。これがイラク攻撃の最も危険な結果の一つだ」

(聞き手は国際部 加藤秀央)

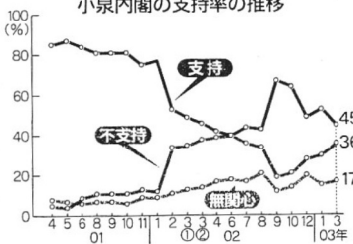
イラク攻撃反対84%

内閣支持率

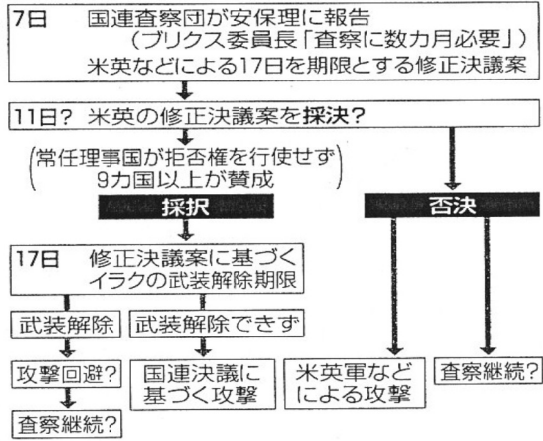
8ポイント低下 45%

本社世論調査

小泉内閣の支持率の推移



The Asahi Shimbun
米英修正案を巡る今後の日程(3月)



イラク攻撃を問う

「いかなる戦いにおいても、私は国際協調と大義名分が必要だと思つた。まったくその通りだと思つた。昨年九月、日米首脳会談のため米国に向かう政府専用機内で、小泉首相がイラク攻撃について記者団に語つた言葉だ。

首相はブッシュ米大統領にも直接言つた。「国際協調体制が取れるように、耐えがたきを耐えることが大事だ。米国民が憤慨されることは分かるが、さらに一段の国際協調を取ることが望ましい」。それがいつの間にか日本はイラク攻撃に

戦争に「待った」と言える日本に

政治部長
菅沼 堅吾

「米国支持ありき」本のだが、国連安保理での武力行使容認決議の採択なしに米英両国がイラク攻撃に踏み切れば、国連は二十世紀の世界の平和と安定に責任を持ってなくなる。「北朝鮮から日本を守つてくれるのは米国だけ。だから新決議の採択に関係なく支持するしかない。これが国益。政府高官は「米国の独走に不安はある」。日本政府内からも、「オフレコ」を条件にすると、こんな説明をしている。しかし米国による北朝鮮攻撃ほど、日本などの近隣諸国にとって最悪のシナリオはない。国際協調による平和解決のモデルをつくるのが、日本の目指す道ではないのか。「攻撃の正当性を米国は攻撃ほど、日本などの近隣諸国にとつて最悪のシナリオはない。国際協調による平和解決のモデルをつくるのが、日本の目指す道ではないのか。」

「元凶」はイラクであつても、今は戦争以外のあらゆる手を尽くし、武装解除の成果を上げる時だと思つた。国際社会の知恵を結集する時だと思つた。「まだ策はある。耐えることが大事だ。」

首相はブッシュ大統領をいさめるべきではないか。政府高官たちが「事務レベルではこれ以上「待て」は言えない」と腰を引く攻撃前夜だからこそ、政治リーダーが渾身(こんしん)でもあつてもある。

それは「国際社会において名譽ある地位を占めた」(憲法前文)と思ひ、国際協調と日米同盟の両立を目指してきた日本の敗北

イラク問題と二ツポン 2.6 毎日 私はどう考える



寺島実郎さん

非常不幸なことが、今月中旬までに15万人の軍がイラクを取り囲む状況で、米はイラク攻撃、フセイン体制転換を政策の軸に置いており、もう引き返せないだろう。時代の空気が戦争は当然であるような方向に流れ、我々自身の感受性が喪失するのが最も怖い。米。かつてイラン・イラク戦争で米がイラクを支援しフセインを育てていた経緯がある通り、欧米諸国は「敵の敵は味方」という論理で中東を複雑怪奇な地域にしてしまった。それに比べ日本はイスラエル、パレスチナ双方と適切な距離を保ち、過去の中東紛争にも武力介入をしたことがない、という先進国の中では特殊なポジションに位置し、主体性を持った中東外交を展開し、世界を不安の構造に引き込む。

注目すべき対応としては、ドイツが国内の基地使用などで米への同盟責任を果たす一方、直接的な軍事支援、資金援助は行わない方針を打ち出したことだ。日本も日米同盟がある以上、ドイツ方式が現実的ではないか。嘆かわしいのは、日本のリーダーたちが万の単位で犠牲者が出かねない戦争に人ごこのようであることだ。このままではイラク攻撃は「憎悪の連鎖」を招き、世界を不安の構造に引き込む。

攻撃は「憎悪の連鎖」を招く

研究所 寺島実郎さん
総合 日本
理事 日理

3・8 とやまでピース・ウォーク

黒部世話人副代表と事務局が参加

この日のピースウォークには冷たい雨の中を300人が集まり、黒部信也世話人副代表のほか、医師医学者の会事務局の平井、松村、杉田が参加しました。

黒部副代表は、「世界の反戦の声は、ほんとにすごいですね。特にイギリスやスペインのように、政府がアメリカの武力攻撃を支持している国の人たちが特に頑張っている。日本も負けていられないですね。」と感想を語っていました。



中央が黒部信也世話人副代表

世界中でイラク攻撃ストップの声を！

3・15 (土) 12時 C i C前

富山駅前 → 西町 → 県庁前公園

2週連続のピース・ウォークに参加を

主催：ピースウォーク in 富山実行委員会

入会ならびに会費納入のお願い

私たち医師・医学者の会の活動は、会費中心に運営しています。活動の基盤となる財政を確保するため、先生の入会ならびに2002年度会費の納入をお願いします。

会の趣旨に賛同し、入会を了承される先生は、FAXまたは電話でその旨ご連絡ください。会費納入用郵便振替票をお送りします。

◇年会費 5,000円 (毎年8月が期首)

◇振込方法

「郵便振替票」をご利用下さい。

◇連絡先

核兵器廃絶をめざす

富山医師・医学者の会

富山市桜橋通り6-13

フコクビル11階 076(442)8000

編集後記

- トータル・フィアーズというアメリカ映画を見た。原題はまさに「恐怖の総和」。ネオナチグループが起こした米国内の核爆発をきっかけに、アメリカとロシアがまさに核戦争突入寸前まで、互いに追いつめられるというストーリー。
- ポルチモアで原爆が爆発したというのに、死者の数や放射能汚染等の被害が深刻に描かれていない不満はあるが、大量破壊兵器を持つ者同士が、互いに疑心暗鬼になっていき、恐怖が「予防的攻撃」にエスカレートしていく様子がリアルに描かれている。
- テロリストが手に入れた原爆が、1973年の第4次中東戦争の際にアメリカがイスラエルに供与したものだということは、現在イラクを目の敵にするブッシュ政権には大きな皮肉である。(S・M)